

株式会社大林組 PRIME 1802  
2025年3月期 第3四半期 決算説明会  
プレゼンテーション資料

2025年2月10日(月)



(業績予想の適切な利用に関する説明)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- 1 通期業績予想の修正および自己株式取得について
- 2 2024年度 第3四半期業績
- 3 2024年度 通期業績予想
- 4 事業別の概況
- 5 株主還元の推移
- 6 当社連結子会社による子会社(孫会社)設立に関するお知らせ

1

## 通期業績予想の修正および 自己株式取得について

- 通期業績予想の修正について
- 自己株式取得について

## 通期業績予想の修正について



## 2024年度 通期連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,510,000	百万円 93,000	百万円 98,000	百万円 87,000	円 銭 121.35
今回修正予想 (B)	2,610,000	132,000	143,000	128,000	178.69
増 減 額 (B-A)	100,000	39,000	45,000	41,000	

## 2024年度 通期個別業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,610,000	百万円 53,500	百万円 63,500	百万円 68,000	円 銭 94.84
今回修正予想 (B)	1,650,000	85,000	95,000	98,000	136.81
増 減 額 (B-A)	40,000	31,500	31,500	30,000	

## 修正の理由

- 国内建設事業における手持ち工事の順調な進捗や採算性の改善
- 海外建設子会社における採算性の改善、為替換算の影響
- 政策保有株式売却の進捗による特別利益の増加

## 通期業績予想の修正について

- 連結・単体の上方修正額については記載のとおり
- 上方修正の主な要因は以下のとおり
  - 単体の国内建築および国内土木事業における、手持ち工事の順調な進捗や採算性の改善
  - 海外建設子会社における採算性の改善や12月末レートが想定レートより円安水準となったこと  
【参考】対USドル:2024/12末 158円、想定レート 135円
  - 親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式売却の進捗に伴う特別利益の増加も寄与

## 自己株式取得について



### 自己株式の取得を行う理由

当社は、「大林グループ中期経営計画2022追補」において、資本効率性をより重視した経営を推進し、成長戦略の実行による持続的な利益成長を図るとともに、必要自己資本の水準を1兆円と設定し、戦略的な資本政策を行うことで、現中期経営計画の最終年度である2026年度(2027年3月期)までに「自己資本当期純利益率(ROE)10%の達成」を目指すことを掲げております。

今般、当社グループの業績及び投資計画の堅調な推移、政策保有株式の計画通りの縮減、安定的な財務状況等を総合的に勘案の上、自己資本を適正にコントロールするため昨年3月に見直した資本政策に基づき、自己資本配当率(DOE)5%の配当の継続に加え2026年度末までに1,000億円規模の自己株式取得による追加還元を行うこととし、その三分の一相当について速やかに買付を開始し、2025年6月30日までの買付完了を目指します。

今後の自己株式取得については、業績改善と成長戦略の進捗を図る中で実施時期、額を検討し、決定次第改めて公表いたします。

当社は、ROE10%の確実な達成に向け、引き続き資本効率性を重視した経営を推進してまいります。

### 自己株式取得に係る事項の内容

- 取得対象株式の種類 普通株式
- 取得する株式の総数 20,000,000株(上限)
- 株式取得価額の総額 300億円(上限)
- 取得期間 2025年2月12日～2025年6月30日
- 取得方法 東京証券取引所における市場買付

## 自己株式取得について

- 業績及び投資計画の堅調な推移、政策保有株式の計画通りの縮減、安定的な財務状況等を総合的に勘案し、このタイミングで公表
- 自己資本配当率(DOE)5%の配当の継続に加え、2026年度末までに1,000億円規模の自己株式取得による追加還元を実施
- 1,000億円規模の自己株式取得の内、三分の一相当については2025年6月30日までに買付完了を目指す
- 今後の自己株式取得については、業績改善と成長戦略の進捗を図る中で実施時期、額を検討し、決定次第改めて公表

2

## 2024年度 第3四半期業績

- 2024年度 第3四半期業績 サマリー
- 連結／単体 PL
- 連結営業利益の増減要因(前年同期比)
- 連結／単体 受注高
- 連結 BS

## 2024年度 第3四半期業績 サマリー



連結売上高

1兆8,811億円

前年同期比 +1,796億円 (+10.6%)  
進捗率 72.1%

国内建設事業は建築・土木とも豊富な手持ち工事が順調に進捗  
海外建設事業はMWH社の連結子会社化が寄与

連結営業利益

971億円

前年同期比 +459億円 (+89.8%)  
進捗率 73.6%

国内建築事業において、採算性の良い案件への入れ替えが進んだこと、国内土木事業において手持ち工事の採算が改善したことなどにより増益

当期純利益

955億円

前年同期比 +480億円 (+101.2%)  
進捗率 74.6%

営業利益の改善に加え、政策保有株式の売却が当初計画を上回るペースで着実に進行し、前年同期から大幅に増益

連結受注高

2兆745億円

前年同期比 +4,546億円 (+28.1%)  
進捗率 63.6%

MWH社の連結子会社化により、海外土木事業は前年同期比で3,729億円の大幅増  
国内建設事業においては施工高の平準化や受注時採算確保を重視した受注活動を継続

※ 進捗率は2025年2月10日発表値にて算出

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

7

## 2024年中間期業績 サマリー

## 連結売上高

- 1兆8,811億円(前年同期比:+1,796億円)
- 第3四半期の連結売上高としては過去最高
- 国内建築事業・国内土木事業とも手持ち工事が順調に進捗したこと、海外建設事業においてMWH社が連結子会社となったことなどが要因

## 連結営業利益

- 971億円(前年同期比:+459億円)
- 国内建築事業において採算性の良い案件への入れ替えが進んだことや手持ち工事の採算が改善したこと、国内土木事業において追加請負金の獲得や手持ち工事の原価低減で採算が改善したことなどが要因

## 当期純利益

- 955億円(前年同期比:+480億円)
- 営業利益の改善に加え、政策保有株式の売却が当初計画を上回るペースで進捗したことによる売却益の増加で、前年同期を大幅に上回る

## 連結受注高

- 2兆745億円(前年同期比:+4,546億円)
- 国内建築事業・国内土木事業は施工高の平準化を図りながら、受注時採算の確保を重視した受注活動を実施
- 海外建設事業ではMWH社での大型工事受注により、前年同期と比較し大幅に増加

## 連結/単体 PL

(単位:億円)



		連結			単体						
		2023年度 第3四半期実績 A	2024年度 第3四半期実績 B	増減額 B-A	2023年度 第3四半期実績 C	2024年度 第3四半期実績 D	増減額 D-C				
完成工事高	建築	12,744	13,474	+729	9,127	9,703	+576				
	土木	3,575	4,604	+1,028	2,298	2,485	+186				
	計	16,320	18,078	+1,757	11,425	12,188	+763				
不動産事業等売上高		694	732	+38	164	147	△17				
売上高		17,015	18,811	+1,796	11,590	12,335	+745				
完成工事総利益	建築	-	-	-	6.5	588	8.7	839	+251		
	土木	-	-	-	14.7	337	18.9	468	+131		
	計	8.5	1,394	10.4	1,874	8.1	926	10.7	1,308	+382	
不動産事業等総利益		24.7	171	23.8	174	+2	21.5	35	20.0	29	△6
売上総利益		9.2	1,565	10.9	2,048	+482	8.3	961	10.8	1,338	+376
販売費及び一般管理費		6.2	1,053	5.7	1,076	+23	5.7	661	5.5	683	+21
営業利益		3.0	512	5.2	971	+459	2.6	299	5.3	654	+354
経常利益		3.6	610	5.6	1,056	+445	3.4	396	6.1	747	+350
親会社株主に帰属する 当期純利益		2.8	474	5.1	955	+480	2.6	302	6.2	762	+460

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

## 2024年度第3四半期 連結/単体実績比較

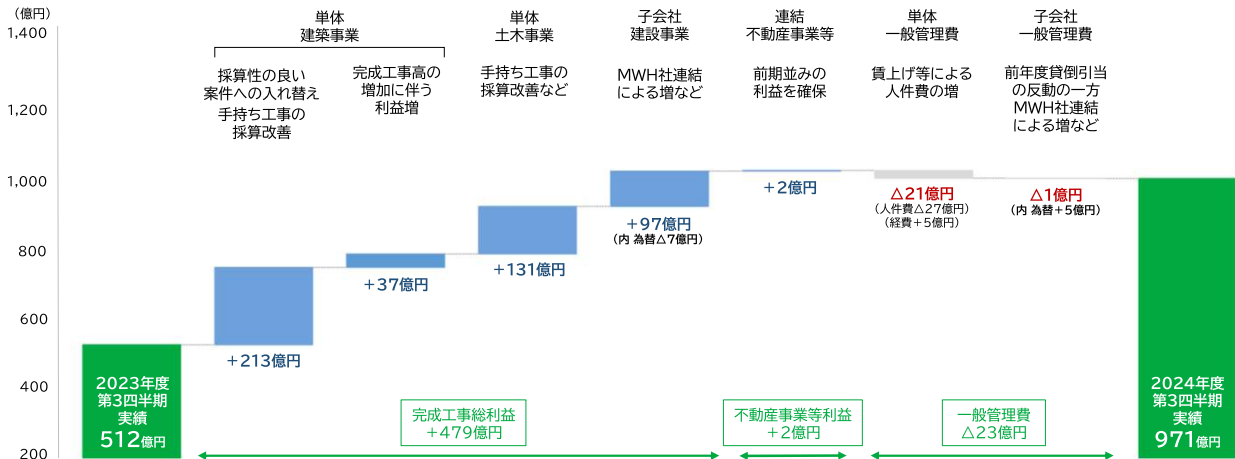
- ・ 連結営業利益の前年同期からの増減要因は9ページを参照



## 連結営業利益の増減要因(前年同期比)



- 国内建築事業において採算性の良い案件への入れ替えが進んだこと、国内土木事業において手持ち工事の採算が改善したことなどにより、第3四半期の営業利益は前年同期比459億円増の971億円となった。



© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

9

## 連結営業利益の増減要因(2023年度第3四半期との比較)

### 営業利益の増加要因

- 国内建築事業: 採算性のよい案件へ入れ替えが進んでいることや手持ち工事の採算改善
- 国内土木事業: 手持ち工事の採算改善など
- 海外子会社: MWH社の連結子会社化により完成工事総利益が増加
- 一般管理費: 前年度北米子会社にて貸倒引当金を計上したことの反動減と、MWH社連結子会社化による増加分で、トータルでは増減はほぼなし

## 連結／単体 受注高



(単位:億円)

			連結			単体		
			2023年度 第3四半期実績 A	2024年度 第3四半期実績 B	増減額 B-A	2023年度 第3四半期実績 C	2024年度 第3四半期実績 D	増減額 D-C
建設事業	建築	国内	7,559	8,646	+1,087	7,187	8,302	+1,114
		海外	4,457	2,854	△1,602	39	38	△1
		計	12,017	11,501	△515	7,227	8,340	+1,113
	土木	国内	2,658	3,615	+957	1,950	3,037	+1,087
		海外	918	4,647	+3,729	191	678	+487
		計	3,576	8,262	+4,686	2,141	3,716	+1,574
	計	国内	10,217	12,261	+2,044	9,138	11,340	+2,202
		海外	5,375	7,502	+2,126	230	716	+486
		計	15,593	19,764	+4,170	9,368	12,057	+2,688
不動産事業等		605	980	+375	164	147	△17	
合計		16,198	20,745	+4,546	9,533	12,204	+2,670	

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

10

## 2024年度第3四半期 連結／単体 受注高

- ・ 連結・単体とも前年同期比で受注高は増加

## 連結 BS



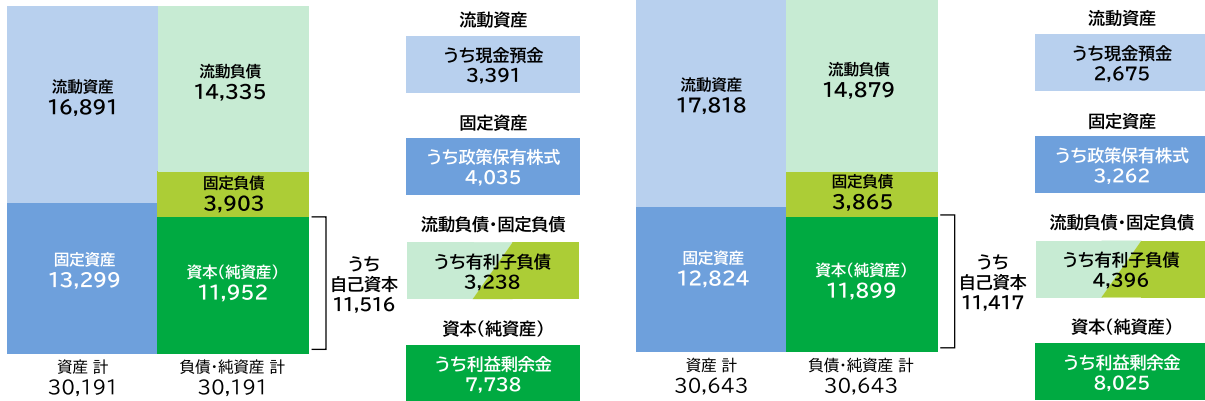
- 協力会社への支払いが先行したことなどから、現金預金は減少し、有利子負債はコマーシャルペーパー発行により増加
- 自己資本については、事業利益を着実に計上している一方、普通配当の支払いや、株価下落に伴うその他有価証券評価差額金の減少もあり、期初から微減

2023年度末

(単位:億円)

2024年度第3四半期末

(単位:億円)



© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

11

### 2023年度末から2024年度第3四半期末のBSの推移

- 大型工事が最盛期を迎え協力会社への支払いが先行し、建設事業収支としてキャッシュアウトしていることによる現預金の減少、有利子負債の増加
- 政策保有株式は、株価下落の影響はあるものの、着実な売却による縮減
- 事業利益の着実な計上の一方、普通配当の支払いや、株価下落に伴うその他有価証券評価差額金の減少により自己資本は微減

3

## 2024年度 通期業績予想

※ 2025年2月10日発表値

- 2024年度 通期業績予想 サマリー
- 連結／単体 PL(予想)
- 連結営業利益の増減要因(対前回予想)
- 連結営業利益の増減要因(対前期実績)
- 連結／単体 受注高(予想)

## 2024年度 通期業績予想 サマリー



(前回予想からの増減要因)

## 連結売上高

2兆6,100億円

(前回予想:2兆5,100億円)

前期比 +2,848億円 (+12.3%)

前回予想比 +1,000億円 (+4.0%)

国内建設事業における追加請負金獲得や、海外建設事業における為替の影響などにより、増収幅が拡大

## 連結営業利益

1,320億円

(前回予想:930億円)

前期比 +526億円 (+66.3%)

前回予想比 +390億円 (+41.9%)

国内建設事業において、追加請負金獲得や原価低減などにより完成工事総利益が増加  
海外建設事業においては為替換算が影響

## 当期純利益

1,280億円

(前回予想:870億円)

前期比 +529億円 (+70.5%)

前回予想比 +410億円 (+47.1%)

営業利益の増加に加え、政策保有株式の売却が当初計画を上回るペースで着実に進み、中計目標の1,000億円を上回る見込み

## 連結受注高

3兆2,600億円

(前回予想:2兆5,200億円)

前期比 +7,469億円 (+29.7%)

前回予想比 +7,400億円 (+29.4%)

国内建築事業における大型工事の前倒し受注、海外建設事業における為替換算の影響、MWH社などでの計画を上回る受注が寄与

※ 2025年2月10日発表値

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

13

## 2024年度通期業績 サマリー

## 連結売上高

- 2兆6,100億円を予想(前回予想比:+1,000億円、+4.0%)

## 連結営業利益

- 1,320億円を予想(前回予想比:+390億円、+41.9%)
  - 国内建築事業:終盤を迎えた工事における物価上昇分の追加請負金の獲得
  - 国内土木事業:終盤を迎えた工事における設計変更による追加請負金の獲得、原価低減
  - 海外建設事業:為替換算の影響など

## 当期純利益

- 1,280億円を予想(前回予想比:+410億円、+47.1%)
  - 営業利益の増加
  - 政策保有株式の売却進捗による特別利益の増加(+110億円)

## 連結受注高

- 3兆2,600億円を予想(前回予想比:+7,400億円、+29.4%)
  - 国内建築事業:次年度以降受注見通し大型案件の今年度前倒し受注計上(見込み)
  - 国内土木事業:複数の大型工事の受注
  - 海外建設事業:大型工事受注のMWH社などでの計画上振れ、為替換算の影響など

## 2024年度 通期業績予想 サマリー

<p><b>連結 自己資本</b></p>	<p><b>1兆1,500億円</b> (前回予想:1兆1,470億円)</p>	<p>前期比 <math>\Delta 16</math>億円 (<math>\Delta 0.1\%</math>) 前回予想比 <math>+30</math>億円 (<math>+0.3\%</math>)</p>	<p>利益の上方修正があったものの、その他有価証券評価差額金の減少により、自己資本は大きく変動しない見込み。現時点で未確定の要素は加味していない値(注)</p>
<p><b>連結 有利子負債</b></p>	<p><b>4,000億円</b> (前回予想:4,000億円)</p>	<p>前期比 <math>+761</math>億円 (<math>+23.5\%</math>) 前回予想比 <math>\pm 0</math>億円 (-)</p>	<p>不動産事業等への投資や工事進捗に伴い先行する協力会社への支払いを資金調達で賄う計画は変更なし</p>
<p><b>ROIC</b></p>	<p><b>5.9%</b> (前回予想:4.2%)</p>	<p>前期比 <math>+2.1</math>pt 前回予想比 <math>+1.7</math>pt</p>	<p>国内建設事業のROICが向上し、全社ROICを押し上げ</p>
<p><b>ROE</b></p>	<p><b>11.1%</b> (前回予想:7.6%)</p>	<p>前期比 <math>+4.1</math>pt 前回予想比 <math>+3.5</math>pt</p>	<p>利益改善に伴い、2024年度はROE10%を上回る見込み</p>

(注)2024年12月末の自己資本額に第4四半期分の当期純利益予想額、自己株式取得の影響額、及び政策保有株式売却に伴うその他有価証券評価差額金の調整額を加減算した値

※ 2025年2月10日発表値

© OBAYASHI CORPORATION. All rights reserved.

14

## 2024年度通期業績 サマリー

### 連結自己資本

- 1兆1,500億円を予想
- これまでの予想値とほぼ同じ水準

#### [増減理由]

- (+)利益は当初予想より上積み見込み
- (-)その他有価証券評価差額金は保有株式の株価変動により減少
- (-)今年度の自己株式取得見込みを加味

### 連結有利子負債

- 4,000億円を予想
- これまでの計画から変更なし

### ROIC

- 5.9%を予想(前回予想比:+1.7ポイント)
- 国内建設事業の採算改善が寄与

### ROE

- 11.1%を予想(前回予想比:+3.5ポイント)

## 連結／単体 PL(予想)



(単位:億円)

		連結			単体						
		2023年度 実績 A	2024年度 予想 B	増減額 B-A	2023年度 実績 C	2024年度 予想 D	増減額 D-C				
完成工事高	建築	17,220	18,330	+1,109	12,402	12,850	+447				
	土木	4,847	6,520	+1,672	3,156	3,400	+243				
	計	22,067	24,850	+2,782	15,558	16,250	+691				
不動産事業等売上高		1,183	1,250	+66	263	250	△13				
売上高		23,251	26,100	+2,848	15,821	16,500	+678				
完成工事総利益	建築	-	-	-	6.3%	783	8.9%	1,150	+366		
	土木	-	-	-	15.4%	485	18.2%	620	+134		
	計	8.6%	1,888	10.4%	2,580	8.2%	1,269	10.9%	1,770	+500	
不動産事業等総利益		26.0%	307	23.2%	290	△17	19.7%	51	16.0%	40	△11
売上総利益		9.4%	2,196	11.0%	2,870	+673	8.3%	1,321	11.0%	1,810	+488
販売費及び一般管理費		6.0%	1,402	5.9%	1,550	+147	5.6%	887	5.8%	960	+72
営業利益		3.4%	793	5.1%	1,320	+526	2.7%	433	5.2%	850	+416
経常利益		3.9%	915	5.5%	1,430	+514	3.5%	554	5.8%	950	+395
親会社株主に帰属する当期純利益		3.2%	750	4.9%	1,280	+529	3.1%	496	5.9%	980	+483

※ 2025年2月10日発表値

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

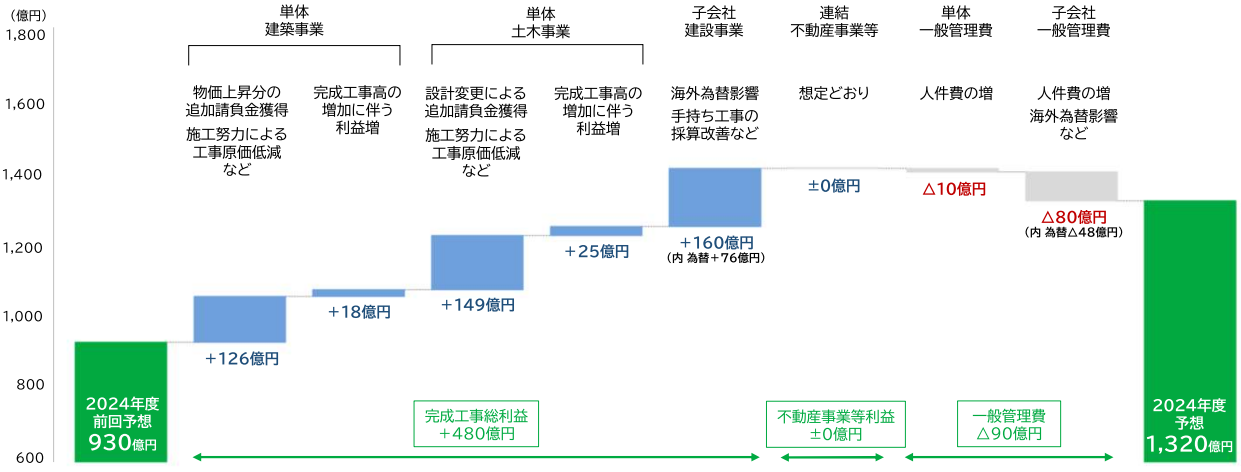
15

## 2024年度 連結/単体 PL(予想)

- 連結営業利益の前回予想値からの増減要因は16ページ、前年度からの増減要因は17ページを参照

### 連結営業利益の増減要因(対前回予想)

- 国内建設事業における物価上昇分や設計変更などによる追加請負金の獲得、海外建設事業における為替換算の影響などにより、営業利益予想を1,320億円に上方修正



※ 2025年2月10日発表値

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

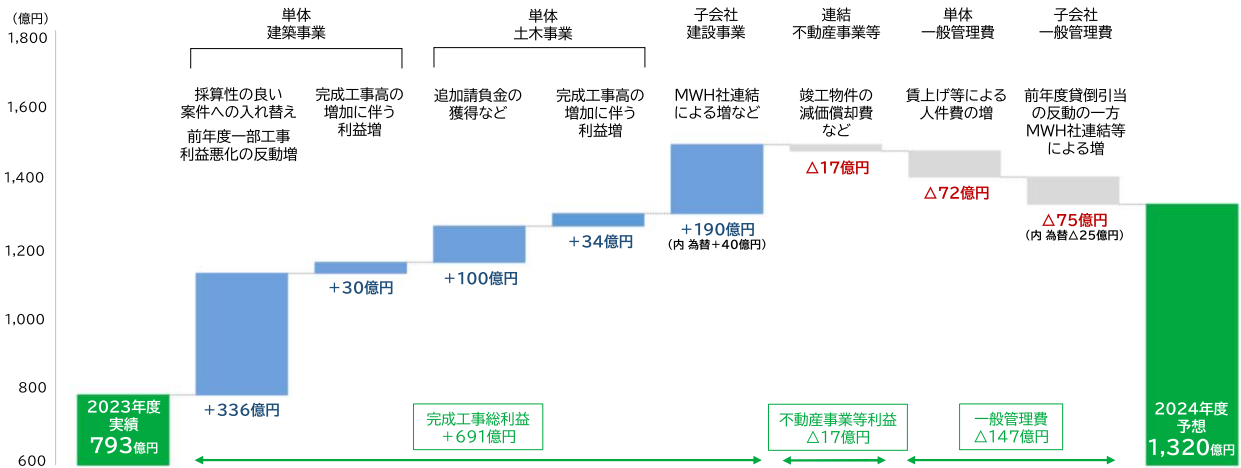
### 2024年度 連結営業利益予想の増減要因(前回予想値との比較)

- 930億円から390億円増の1,320億円へ上方修正
- 単体の建築・土木事業の完成工事総利益は、合計で320億円増加する予想
- 建築事業については、国交省や日建連の活動等の後押しもあり、建設物価上昇の影響を受けていた手持ち工事の過年度分も含めた追加請負金が認められやすくなり、今年度の採算が大幅に改善
- 子会社建設事業は、為替換算の影響を含めると80億円、為替換算の影響を除くと52億円増加する見込み



## 連結営業利益の増減要因(対前期実績)

- 国内建設事業における採算性の良い案件への入れ替えや追加請負金の獲得に加え、前年度買収したMWH社の連結子会社化などにより、前期比+526億円の大幅増益を見込む



※ 2025年2月10日発表値

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

17

## 2024年度 連結営業利益予想の増減要因(2023年度実績の比較)

- 2023年度の793億円から526億円増の1,320億円と大幅な利益増を見込む
- 単体の建築・土木事業の完成工事総利益が、合計で500億円増加と予想。これが営業利益の伸びに直結
- 海外建設事業は、今年度から連結対象となったMWH社の利益貢献、ならびに前年度の北米子会社の貸倒引当金計上からの反動が増加の要因

## 連結／単体 受注高(予想)



(単位:億円)

		連結			単体			
		2023年度 実績 A	2024年度 予想 B	増減額 B-A	2023年度 実績 C	2024年度 予想 D	増減額 D-C	
建設事業	建築	国内	12,369	15,500	+3,130	11,948	15,000	+3,051
		海外	5,203	4,700	△503	37	50	+12
		計	17,573	20,200	+2,626	11,985	15,050	+3,064
	土木	国内	4,231	5,300	+1,068	3,280	4,450	+1,169
		海外	1,745	5,700	+3,954	485	800	+314
		計	5,977	11,000	+5,022	3,766	5,250	+1,483
	計	国内	16,601	20,800	+4,198	15,229	19,450	+4,220
		海外	6,949	10,400	+3,450	522	850	+327
		計	23,550	31,200	+7,649	15,751	20,300	+4,548
不動産事業等		1,580	1,400	△180	263	250	△13	
合計		25,130	32,600	+7,469	16,015	20,550	+4,534	

※ 2025年2月10日発表値

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

18

## 2024年度 連結/単体 受注高(予想)

記載のとおり

4

## 事業別の概況

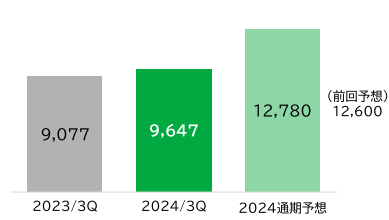
- 国内建築事業(単体)
- 国内土木事業(単体)
- 海外建設事業(連結)
- 不動産事業その他(連結)
- 連結/単体 比較

## 国内建築事業(単体)

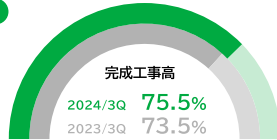


(単位:億円)

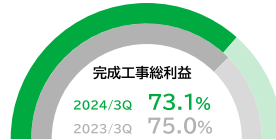
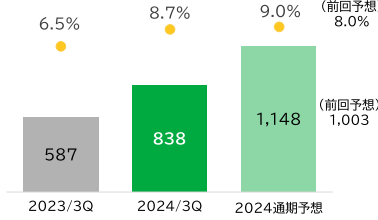
### 完成工事高



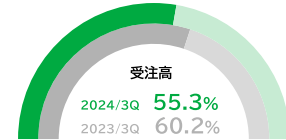
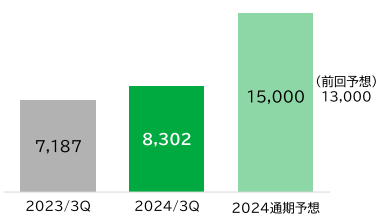
#### 進捗率



### 完成工事総利益/率



### 受注高



### 2024年度 第3四半期業績

- 完成工事高は、手持ち大型工事の施工が順調に進捗したことなどにより、前年同期比で569億円の増収
- 完成工事総利益は、採算性の良い案件への入れ替えや手持ち工事の採算改善などにより、前年同期比で251億円の増益

### 2024年度 通期業績予想

- 完成工事総利益は、物価上昇分の追加請負金獲得などにより、前回予想から上方修正
- 受注高は、次年度以降に受注を見通していた大型工事が今年度前倒しで受注計上される見込みであり、前回予想から上方修正

※ 2023/3Qの進捗率は2023年度通期末実績にて算出  
2024/3Qの進捗率は2025年2月10日発表値にて算出

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

## 単体国内建築事業

### 2024年度第3四半期業績

- 完成工事高:手持ち大型工事の施工が順調に進捗したことなどにより、前年同期比で569億円の増収
- 完成工事総利益:採算性がよい案件への入れ替えが進んでいること、手持ち工事の採算が改善したことから前年同期比で251億円の増益

### 2024年度通期業績予想

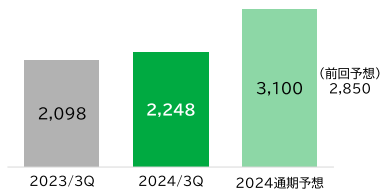
- 完成工事高:1兆2,780億円に上方修正
- 完成工事総利益:完成工事高の増加に加え、建設物価上昇の影響を受けていた工期終盤を迎えた工事における、過年度分を含めた物価上昇見合いの追加請負金の獲得などにより1,148億円に上方修正
- 完成工事総利益率:8.0%から9.0%に上方修正
- 受注高:
  - 次年度以降受注見通しの大型案件が今年度前倒しで受注計上される見込みから、前回予想から2,000億円増の1兆5,000億円に上方修正
  - 引き続き施工の平準化を図りながら受注時採算の確保を最優先として取り組む

## 国内土木事業(単体)

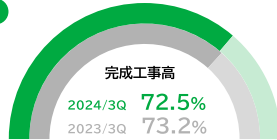


(単位:億円)

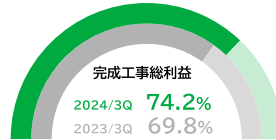
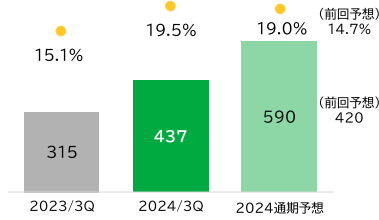
## 完成工事高



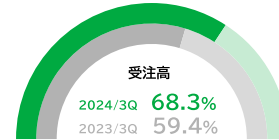
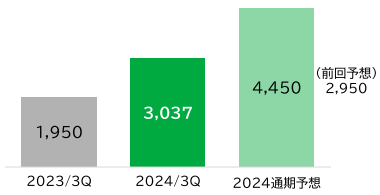
## 進捗率



## 完成工事総利益/率



## 受注高



## 2024年度 第3四半期業績

- 完成工事総利益は、追加請負金の獲得などによる手持ち工事の採算改善が寄与し、前年同期比で121億円の増益

## 2024年度 通期業績予想

- 完成工事高、完成工事総利益とも、設計変更による追加請負金の獲得などにより、前回予想から上方修正
- 受注高は、年度内契約分も含めて大型工事を複数受注出来たことなどにより、前回予想から上方修正

※ 2023/3Qの進捗率は2023年度通期末実績にて算出  
2024/3Qの進捗率は2025年2月10日発表値にて算出

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

21

## 単体国内土木事業

## 2024年度第3四半期業績

- 完成工事高:手持ち工事の順調な進捗により前年同期比で149億円の増収
- 完成工事総利益:手持ち工事における採算改善や追加請負金の獲得などにより前年同期比で121億円の増益

## 2024年度通期業績予想

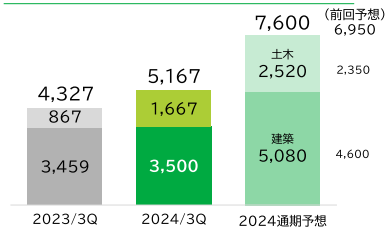
- 完成工事高:終盤を迎えた工事での設計変更による追加請負金の獲得などにより3,100億円に上方修正
- 完成工事総利益:追加請負金の獲得などにより590億円に上方修正
- 完成工事総利益率:14.7%から19.0%に上方修正
- 受注高:年度内契約分も含め大型工事を複数受注により、4,450億円に上方修正

## 海外建設事業(連結)

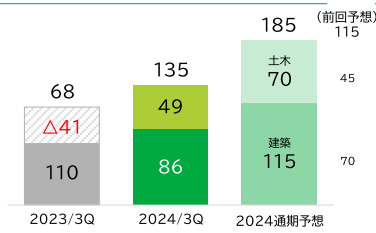


(単位:億円)

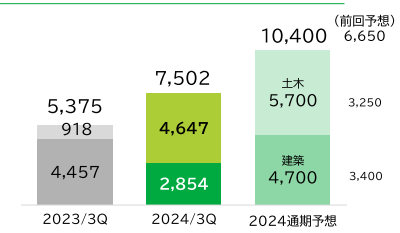
## 完成工事高



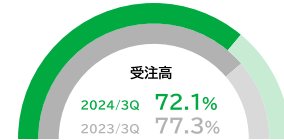
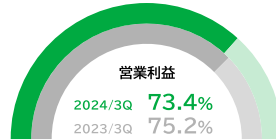
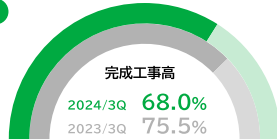
## 営業利益



## 受注高



## 進捗率



## 2024年度 第3四半期業績

- 前年度に買収したMWH社の連結子会社化の寄与に加え、前年度貸倒引当金計上の反動により、前年同期比で増収増益
- 受注高はMWH社の連結子会社化により大幅増

## 2024年度 通期業績予想

- 完成工事高、完成工事総利益とも、為替の影響などにより、前回予想から上方修正
- 受注高は、MWH社や大林シンガポールにおいて当初計画を上回る受注があったことに加え、為替の影響が寄与

※ 2023/3Qの進捗率は2023年度通期実績にて算出  
2024/3Qの進捗率は2025年2月10日発表値にて算出

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

22

## 連結海外建設事業

## 2024年度第3四半期業績

- 完成工事高: 前年度買収したMWH社の連結子会社化により、前年同期比で840億円的大幅増収
- 営業利益: MWH社分の増益に加え、前年度北米子会社で貸倒引当金を計上した反動もあり前年同期比で66億円の増収
- 受注高: MWH社にて大型工事を受注したことにより大幅に増加

## 2024年度通期業績予想

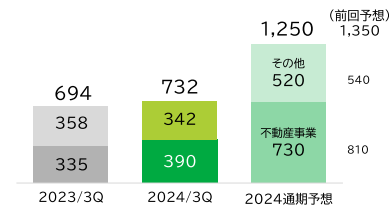
- 第3四半期業績の理由に加え、12月末の為替レートが期初計画時より大幅に円安水準になったことにより、完成工事高、営業利益、受注高とも上方修正

## 不動産事業その他(連結)

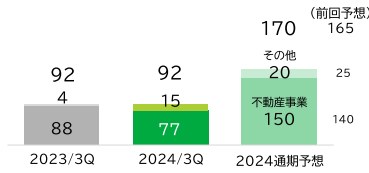


(単位:億円)

## 売上高

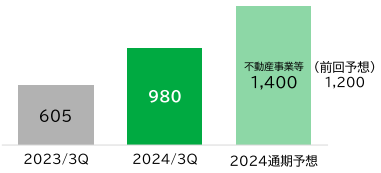
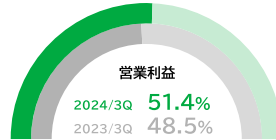
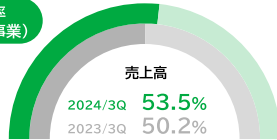


## 営業利益



## 受注高

(不動産事業/その他の内訳は非開示)

進捗率  
(不動産事業)

## 2024年度 第3四半期業績

- 不動産事業の売上高は、大林新星和不動産の分譲マンションの販売価格上昇により増収
- 不動産事業の営業利益は、竣工物件において賃貸収入を上回る減価償却費が発生したことや、前年度売却物件の賃貸収入減などにより減益

## 2024年度 通期業績予想

- 不動産事業は、物件売却において当初計画を上回る利益確保の目的が立ったことにより、前回予想から売上高は減少となるものの、営業利益は増加を見込む

※ 2023/3Qの進捗率は2023年度通期実績にて算出  
2024/3Qの進捗率は2025年2月10日発表値にて算出

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

23

## 不動産事業その他(連結)

## 2024年度第3四半期業績

- 不動産事業売上高:大林新星和不動産の分譲マンション販売価格上昇により増収
- 不動産事業営業利益:前年度竣工物件の減価償却費発生や前年度物件売却による賃貸収入減少により減益

## 2024年度通期業績予想

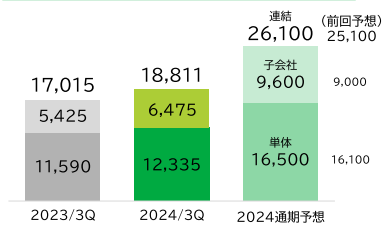
- 不動産事業売上高:大林新星和不動産の分譲マンション販売などにより増収見込み
- 不動産事業営業利益:前年度に竣工した物件の減価償却費発生や前年度物件売却による賃貸収入の減により、前年度より減益の見込み。ただし、私募ファンドへの売却利益の関係から前回予想から減益幅の縮小を見込む

## 連結／単体 比較

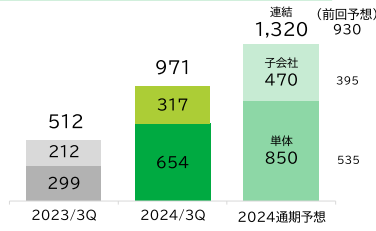


(単位:億円)

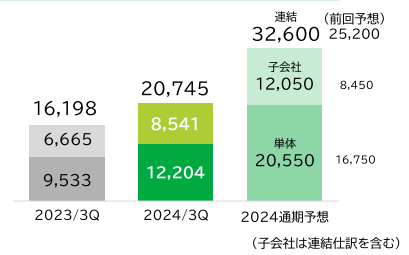
### 売上高



### 営業利益



### 受注高



### 連単倍率

1.47倍

1.52倍

1.58倍

1.71倍

1.48倍

1.55倍

1.70倍

1.70倍

1.59倍

### 2024年度 第3四半期業績

- 単体は、国内建築・土木とも手持ち工事が順調に進捗したこと、採算性の良い案件への入れ替えが進んだことなどにより増収増益
- 子会社は、前年度に買収したMWH社の連結子会社化が寄与したことなどにより増収増益

### 2024年度 通期業績予想

- 単体は、国内建設事業における追加請負金の獲得などから、売上・利益とも前回予想を上方修正
- 子会社は、海外建設事業における為替換算の影響などから、売上・利益とも前回予想を上方修正

※ 連単倍率は2025年2月10日発表値にて算出

© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

24

## 連結／単体 比較

- 2024年度は、連結・単体とも増収・増益の見込み





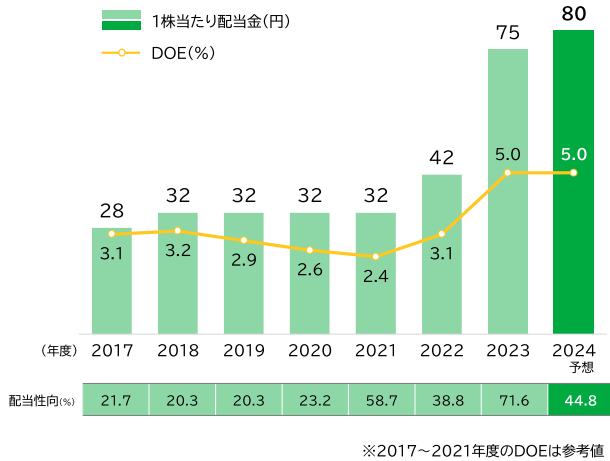
5

## 株主還元の推移

## 株主還元の推移



- 自己資本配当率(DOE)5%程度の配当基準に基づき、年間配当は1株あたり80円を予定
- 2026年度末までに1,000億円規模の自己株式取得を行うこととし、300億円について速やかに買付を開始



長期安定配当の  
維持を第一

DOE5%程度

DOEの目安は利益水準の  
中長期的な改善傾向に  
合わせて見直し



必要自己資本額と  
利益の状況に応じて  
機動的に実施

自己株式取得

2026年度末までに  
1,000億円規模を実施  
2025年2月~6月 300億円

## 株主還元の推移

### 普通配当

- 基本方針は長期安定配当の維持
- 自己資本配当率(DOE)5%程度に基づき、年間配当は1株あたり80円を予定

### 機動的還元

- 2026年度末までに1,000億円規模の自己株式取得による追加還元を実施
- その内、三分の一相当については2025年6月末までに買付完了を目指す



6

## 当社連結子会社による子会社(孫会社)設立に関するお知らせ

## 当社連結子会社による子会社(孫会社)設立に関するお知らせ



- タイ大林が、バンコクにおいてオフィス用途を中心としつつ、高層部にホテルを導入した複合施設を開発
- 運営委託方式によるホテル事業への参入を目的として、タイの総合消費財大手サハグループと共同で新会社を設立

### 新設する子会社(孫会社)の概要

(仮)Ratchadamri Hospitality Management Company Limited

- 事業内容:バンコク都パトゥムワン区ラチャダムリ通りにおいて計画中の複合施設内で実施するホテル事業の経営
- 資本金:26億タイバーツ
- 設立年月:2025年6月
- 持株比率:タイ大林60%、Saha Pathana Inter-Holding社(※)40%  
※サハグループの中核会社

### 計画概要

- 所在地:バンコク都パトゥムワン区ラチャダムリ通り
- 敷地面積:約9,804㎡
- 延べ面積:約117,650㎡
- 階数:地上39階 地下3階
- 建物用途:オフィス、ホテル、商業、駐車場
- 竣工・開業:2029年度(予定)



© OBAYASHI CORPORATION, All rights reserved.

28

## 当社連結子会社による子会社(孫会社)設立に関するお知らせ

- タイ大林では、タイ・バンコクにおいてオフィス+ホテル(高層部)の複合施設を開発(2件目の開発事業)
- ホテル経営事業(運営委託方式)は、知見を有するサハグループと共同で新会社を設立
- パートナーとなるSaha Pathana Inter-Holding(サハ・パタナ・インター・ホールディングス)社はタイ最大規模の企業グループであるサハグループの中核会社。多くの日本企業と業務提携や合弁会社の設立実績あり
- 大林グループは、今後も中期経営計画 2022 にて掲げる「持続的成長のための事業ポートフォリオの拡充」に向け、多様な事業領域で培った技術及びネットワーク等の強みを活用し、積極的な投資による新たなビジネス機会の創出に取り組んでいく

